

北海道建築士

HOKKAIDO KENCHIKUSHI 2016.11.No231

11月号

目次

| | |
|--------------|---|
| 建築士の日 支部事業紹介 | 1 |
| 技術ノート | 2 |
| 道士会の動き | 4 |
| 実行委員会報告 | 5 |
| 〔事業・総務〕 | |
| 青年・女性の窓 | 6 |
| 〔青年委員会〕 | |
| Coffee Break | 7 |
| information | 8 |

URL <http://www.h-ab.com/>

建築士の日 支部事業紹介

まちづくり委員会による「札幌の景観バスツアー」



情報委員会 委員 柳山美保子（札幌支部）

「建築士の日」記念イベントとして、まちづくり委員会では「札幌の景観バスツアー」を行っています。これは、建築士会員だけではなく市民のみなさまにも広く募り、一緒に歴史的建造物を見て廻るという企画で、大変好評をいただいています。

★2011年豊平区編。初回でもあって道新に案内記事を掲載したため、申込みが殺到し、2回開催いたしました。解説には、札幌市景観アドバイザーであり、NPO法人歴史的・地域資産研究所機構代表理事の角幸博氏をお招きし、豊平区の景観資産、都市景観賞の作品など、歴史的建造物を見学しました。

★2012年南区編も2回の開催です。札幌都市景観賞や、さっぽろ・ふるさと文化百選でもある石山緑地。ここは札幌軟石採掘跡地を利用した公園です。石山振興会館（旧石切山駅）、ぼすとかん（旧石山郵便局）、六花文庫（旧六花亭真駒内店）、エドウィン・ダン記念館（旧北海道庁真駒内種畜場事

務所）など、それぞれ札幌景観資産でもある建築物。
★2013年中央区編。札幌市資料館（旧札幌控訴院）、ろいず珈琲館（旧小熊邸）、杉野目邸など。
★2014年西区・手稲編。琴似屯田兵村兵屋跡（旧133番清野家）、琴似屯田兵屋（旧140番佐藤家）、サッポロ珈琲館本館（旧北海道工業試験場第二庁舎）、れんがの館（旧日本食品製造合資会社工場）、スイス人マックス・ヒンデル設計の手稲パラダイスヒュッテ、そして札幌市内で運河と名のつく唯一の山口運河、レストランに復元された、あんとるぼー館（旧遠藤醸造店事務所）などを見学。
★2015年北区編。札幌市指定有形文化財の清華亭・偕楽園緑地、藤学園キノルド資料館・奉安殿、篠路駅周辺の倉庫（石造・煉瓦造の平屋のタマネギ倉庫）、屯田郷土資料館などを見学。
参加された方から沢山の感想をいただき、また参加したいという声が多く、市民のみなさまに励まされ、これからも続けて行く予定です。

釧路支部による「親睦ビールパーティー」



情報委員会 委員 鈴木 雅人（釧路支部）

釧路支部では、より一層多くの皆様と親睦を深めるため、初夏の恒例「第28回 親睦ビールパーティー」を開催し建築士会のPR活動を行いました。いまひとつの天気、たいへんお忙しいところにもかかわらず、おかげさまで250名近い参加者により盛大に行われ、賛助会員の皆様からご提供いただいた景品が当たる大抽選会は、今年も大いに盛りあがりました。

アトラクションでは地元バンドの「佐藤シンウィズ フレンズ」の方々の演奏も、たいへん好評いただきました。

また、今年から新しい企画として行った、「賛助会員企業パネル展」にも5社がご参加いただき今後も継続して活用していただける場作りに努めさせて

いただき、来年は、もっとたくさんの参加者が増えるようにしたいと思います。

まだまだ建築士としての社会的役割や仕事など、一般的には周知されていないと思いますので、われわれ建築士や建築士会の活動をより多くの人に知ってもらうために、来年も「建築士の日」に向けて、継続して本事業を開催する予定です。みなさんも、ぜひ、釧路に遊びに来ていただき、「建築士の日」を大いに盛り上げて行きましょう。



会場風景

人口減少時代の定住施策 — 人の動きの的確な分析と課題のあぶり出し —

地方独立行政法人北海道立総合研究機構建築研究本部
北方建築総合研究所地域研究部 部長 松村博文

1. はじめに

北海道内、特に郡部では、急激な人口減少、超高齢化が進行し、生活利便性の低下や相互扶助機能を有するコミュニティの衰退、一人あたりのインフラコストの増加などの問題が顕在化しつつある。このような状況下では、高度成長期の住宅の量的な供給や市街地の拡大のコントロールなどとは大きく異なるこれまで経験したことの無い新たな対応が必要となる。多くの自治体では、定住促進を重要課題として施策を実施している。しかし、その多くは、他自治体の成功施策を取り入れ、結果として成果が得られない状況である。郡部では、高齢者の都市部への転出や若者が就業はしても居住せず周辺都市から通勤するなどの人の動きが見られる。しかし、それらの状況は各市町村で異なり、的確な状況把握に基づく定住促進などの各種施策の検討が重要となる。そこで、本稿では、北海道南幌町を対象に国勢調査データに加え住民基本台帳（以下、住基台帳）のデータから、人の属性に加え居住する住宅に着目した人口動態の分析を行い、町内での定住促進や住宅についての課題と対応方策を明らかにする。

2. 南幌町の概要と人口動態の分析方法

南幌町は、札幌市の東側に位置し（札幌駅までバスで42分）、人口8,778人、世帯数3,068世帯で、稲作を中心に野菜などを生産する農業が基幹産業である。また、町内では、札幌市のベッドタウンとして戸建住宅地分譲（計画画地数3600区画、事業主体：北海道住宅供給公社）が1974年から行われているが、当所の計画どおり転入が進まず、現在でも約700区画が分譲されている。

人口動態の分析は、国勢調査と住基台帳のデータを用いる。住基台帳は、2008年から2011年の4年間の転出入及び町内異動者のデータからそれらの状況について分析する。住基台帳のデータからは、年齢、性別、世帯分離^{注1)}状況に加え、住所から住宅を戸建と共同に判別する^{注2)}。

3. 人口動態

(1) 国勢調査による人口減少、高齢化の状況

南幌町の人口、世帯数はともに減少傾向にある（図1）。高齢化率は2010年で23.6%と全道平均24.1%に比べわずかに下回っているが、今後は急速に高齢化が進行することが推計されている。2005年から2010

年での5歳階級別の人口増減では、ほぼ全ての階級で減少しており、特に20～24歳での減少が著しく、75歳以上の人口減少も大きくなっている（図3）。

社会増減では、2005から2010での転出数は1,111人で転入数788人を323人上回っている（表1）。転出先、転入元は、ともに札幌市が最も多く、次いで江別市など隣接する市町村である（表2）。



図1 人口・世帯数の推移 図2 高齢化率の推移
(国勢調査 [~2010]、国立社会保障・人口問題研究所 [2015~])

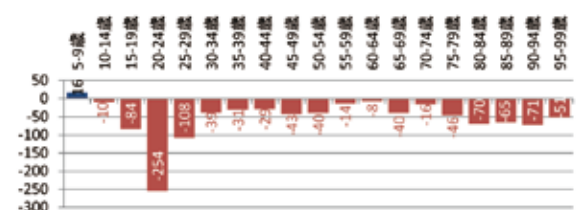


図3 5歳階級別の人口増減
(2005~2010国勢調査)

表1 転出入数
(2010国勢調査)

| | 道内 | 道外 | 計 |
|-----|-----|-----|-------|
| 転出数 | 979 | 132 | 1,111 |
| 転入数 | 683 | 105 | 788 |

表2 転出先、転入元
(2010国勢調査)

| | 道内転出先 | 道内転入元 |
|----|----------|----------|
| 1位 | 札幌市(396) | 札幌市(234) |
| 2位 | 江別市(198) | 江別市(99) |
| 3位 | 北広島市(58) | 岩見沢市(50) |

(2) 住基台帳による人口の社会増減状況

住基台帳データから2008年から2011年の4年間の転出入状況を年齢や人の属性、居住する住宅種類に着目して分析を行う。

転出、転入ともに20代が最も多く、60代以外では転出が転入を上回っている（図4）。高齢者の転出先では札幌市が最も多く62人で、そのうち、戸建居住者の単身者が35人と最も多い（図5）。転入者は20代が最も多く、そのうち単身で戸建住宅への転入者が205人と最も多く、次いで、単身で共同住宅が51人である（図6）。20代の単身で戸建住宅に転入する人としてUターンで実家にもどる若者などが想定される。

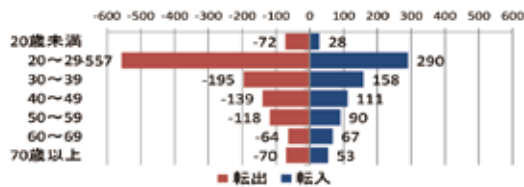


図4 住基台帳による転出入人数 (住基台帳2008年～2011年の4年間の合計値)



図5 住基台帳による高齢者の転出先 (住基台帳2008年～2011年の4年間の合計値)



図6 住基台帳による年齢別転入状況 (住基台帳2008年～2011年の4年間の合計値)

(3) 住基台帳による町内異動の実態

南幌町内の異動状況を住基台帳データから分析する。町内異動者は4年間で313人であり、30代が最も多く72人である(図7)。30代の町内異動では、戸建住宅から戸建住宅と共同住宅から戸建住宅への異動が多く、世帯分離をして異動する人も見られる(図8)。

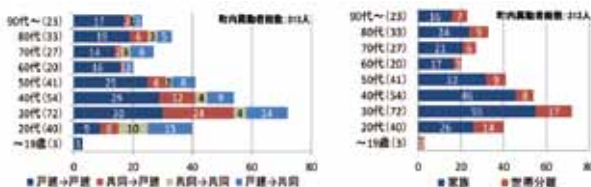


図7 住基台帳による住宅種類別町内異動状況 図8 住基台帳による世帯属性別町内移動状況 (住基台帳2008年～2011年の4年間の合計値)

(4) 常住地と従業地の状況

南幌町内の事業所等で従業している人のうち、南幌町に常住しているのは2,189人(64.4%)で、他市町で常住しているのが1,104人(32.5%)である(表3)。町外の常住地としては、江別市が364人と最も多く、次いで、札幌市の344人、岩見沢市168人、北広島市120人、長沼町52人で札幌市以外はいずれも隣接市町である。

表3 南幌町内の従業者の常住地(2010国勢調査)

| | 南幌町内に常住 | 南幌町外に常住 | 不詳 | 計 |
|----|---------|---------|------|--------|
| 人数 | 2,189人 | 1,104人 | 105人 | 3,398人 |
| 割合 | 64.4% | 32.5% | 3.1% | |

町外の常住地の上位5市町は、江別市364人、札幌市344人、岩見沢市168人、北広島市120人、長沼町52人

4. 定住促進の課題と方策

南幌町では、人口減少、高齢化に加え、大量の戸

建住宅用の未分譲画地を抱えており、定住促進が大きな課題となっている。ここでは、前述の分析結果から、定住促進の課題や方策について考察する。

(1) 高齢者の町内での住み続け(転出抑制)

戸建住宅の高齢者が札幌市に転出している。これは、冬季の除雪負担が加齢とともに増大するなど、自立した生活が困難になった際に、高齢者用の集合住宅への住み替えニーズが生じるが、町内には各種サービスを提供する高齢者用集合住宅はない。そのため、それらの住宅が多い札幌市に転出していると考えられる。戸建住宅の高齢者が南幌町に住み続けるためには、高齢者用集合住宅への住み替えが必要で、その供給を誘導することが求められる。

(2) 若者就労層の定住促進

南幌町外に常住し、町内の事業所等に通勤している人が1,104人いることから、町内従業者の町内常住を促進することが求められる。町内に常住しない理由として、若年就労層が住む賃貸住宅が不足しているなどが考えられる。そこで、事業所を通じて町内居住の意向や住宅ニーズを把握し、良質な賃貸住宅の供給誘導などの施策を検討する必要がある。

(3) 中古住宅流通の促進

高齢者の住み替えなどに伴い戸建住宅の空き家が大量に発生することが予想される。これらを長期の空き家にするのではなく、中古住宅として活用することが重要となる。そのためには、中古住宅の高齢者の住み替え先の確保に加え、現住宅の処分についての相談や情報提供など安心して住み替えられる仕組みづくりが求められる。中古住宅市場の充実は、可処分所得が減少する中、若者の転入促進において、今後ますます重要となる。

5. おわりに

本稿では、南幌町を対象に、国勢調査の各種データに加え、住基台帳データにより人や世帯の属性、住宅種類などを分析し、定住促進などに関する課題と方策を明らかにした。さらに、本稿では記せなかったが住民の住み替え意向調査や空き家状況調査などを行い、南幌町に対し、定住促進に関する施策提案を行っている。

人口減少局面の自治体において、各種施策を検討する際には、人や住まいの状況を的確に把握することが重要となる。住基台帳のデータは自治体が有する貴重な情報で、それを有効に活用することが望まれる。

本稿は北海道建設部からの委託研究「道内自治体における住替え推進方策に関する研究(道と南幌町との共同で実施)」(平成24～25年度)を基に論じたものである。

注1) 結婚などで元の世帯から世帯主として新たな世帯に分離すること。

注2) 南幌町では、住民票の住所について、アパート等の共同住宅の場合は、アパート名と室番号まで記入している。

表彰関係

10月22日開催の第59回建築士会全国大会（大分大会）、また、10月1日開催の第41回全道大会（室蘭大会）の式典において、今年度の日本建築士会連合会会長表彰者、北海道建築士会会長表彰者の表彰式がそれぞれ執り行われ、賞状が授与されました。

永年にわたり、本会の役員として、会の発展に功績のあった表彰者の皆様をご紹介します。

【(公社)日本建築士会連合会会長表彰者】

(敬称略)

| 支部名 | 氏名 | 支部名 | 氏名 | 支部名 | 氏名 |
|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| 旭川 | 富田 秀彦 | 紋別 | 中原 隆二 | 宗谷 | 八重樫 昇 |
| 十勝 | 三日市則昭 | 宗谷 | 岸 義雄 | | |

【(一社)北海道建築士会会長表彰者】

(敬称略)

| 支部名 | 氏名 | 支部名 | 氏名 | 支部名 | 氏名 | 支部名 | 氏名 |
|-----|-------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| 札幌 | 内海 純一 | 後志 | 由井 伸治 | 旭川 | 佐野 元宏 | 網走 | 今野 高志 |
| 千歳 | 伊藤 博 | 室蘭 | 服部 直宏 | 旭川 | 朝日 庸浩 | 北見 | 小原 智 |
| 恵庭 | 岩瀬 和芳 | 室蘭 | 山下 哲治 | 十勝 | 川合 一壽 | 北見 | 渡辺 学 |
| 函館 | 岩崎 美乃 | 苫小牧 | 今成 宏道 | 十勝 | 青木 達彌 | 紋別 | 本多 正彦 |
| 函館 | 小柳 博之 | 空知 | 徳井 光司 | 釧路 | 柏木 茂 | 宗谷 | 木村 敏弘 |
| 桧山 | 川端 英司 | 北空知 | 平 勉 | 根室 | 土生 耕造 | | |
| 小樽 | 松木 秀樹 | 旭川 | 村上 博樹 | 中標津 | 名和 孝志 | | |

受賞おめでとうございます。

会長表彰規定改定される“永年会員表彰枠を追加”

改定内容は、永年会員表彰枠の追加、功績評価に係る条件の緩和、支部会員数に係る条件設定の撤廃、ほか表現の見直しを行い、次のとおり改定しました。

第2条 表彰は、会長が次の各号のいずれかに該当する個人または団体に対して、理事会の議を経て行なう。

- (1) 当該年1月1日現在で30年以上の会員歴のあるもの
- (2) 会員で、特に本会の発展に功績のあったもののうち、当該年1月1日現在の会員歴20年以上又は年齢50歳以上のもの
- (3) 本会の職員で多年にわたり功績があったもの
- (4) 会員で社会的功績があったもの
- (5) 技術上著しい改良、工夫をし、また画期的研究により建築関係業務の進捗改善に寄与したもの
- (6) 建築関係業務における災害の早期発見、防止等災害発生にあたり特に功績のあったもの

- (7) その他、特に表彰に値すると認められるもの

改定規定は平成29年1月1日から施行します。特に永年会員は、士会のサポーターとして活動を下支え頂いており貴重な会員で、今後とも会員として継続されることを切望するもので、永年会員であることを認識出来る徽章を贈呈することも検討しています。

吉木 隆 (副会長)



高野会長から表彰を受ける代表者



本年会長表彰受賞者

(一社)北海道建築士会 会員の皆様へ

【熊本地震義援金】拠出のご報告とお礼

先の熊本地震で被災された方々への救援や被災地復興に役立てていただくための義援金の拠出につきまして、多くの会員の皆様方からご拠出いただき心より感謝申し上げます。

また、各支部におかれましては、会員の方からのご拠金をお取りまとめいただき、誠にありがとうございました。

皆様からお預かりしました義援金の総額は 1,044,205円 となっており、公益社団法人熊本県建築士会へお送りいたしました。

【建築士会活動の活性化、会員増強に向けたアンケート】のお礼

先に実施いたしましたアンケートにつきまして、会員の皆様におかれましては、お忙しいなかご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

この結果につきましては、本会の活性化及び会員増強に向けた対策を検討するための基礎資料として有効に活用させていただきますので、皆様どうぞよろしく願いました。

事業の新たな展開について

事業委員会

委員長 伊藤 隆英 (恵庭支部)



去る7月7日(木)午後3時から本部会議室にて第2回事業委員会を全委員出席のもと開催いたしました。

今回は、第58回「建築技術講習会」の開催についてですが、ここ2年間各支部(ブロック)からの開催要望がなく、この講習会用テキストが200部程度残っており、新たな講習会用テキストを作成するも“ネタ切れ”状態から『総合的』に判断して永年続いていた従来型の「建築技術講習会」は『廃止』する方針で決定しました。

また、今回の会議に際して事前に各支部による講習会等の開催調査を行ったところ、5支部から回答をいただきそれぞれの地域ニーズに合った講習会等を支部が独自で開催している実態を知ることができました。

このことから、在庫している最後の講習会用テキスト(*建築技術者の「必携版」)の利活用策として、10月1日開催の第41回全道大会(室蘭大会)の会場で「販売」することにしました。

今回の新たな事業の展開として、「建築士会インスペクター養成講座(長期優良住宅リフォーム推進事業)」を、4月22日(金)北海道自治労会館で開催し、全道の25支部から148名の受講をいただきました。

つぎに、既に連合会(東京)が開催した「杭基礎の設計・施工の要点と基礎ぐい工事監理ガイドライン」の解説講習会が盛況だったことを受けて、11月10日(木)北海道第2水産ビルで定員100名で開催することになりました。

つぎに、昨年から各実行委員会が主催・開催するイベントに対して200万円の「協賛金」を拠出している「東西アスファルト事業協同組合」と協賛できる新たな事業等はないかなどを含めた協議を進めることにしております。

また、今までの講習会テキストのデータの解析と新たなテキストの作成など、今後の長期的な方向性を見出すための検討を行うことにしております。

このように、その時代のニーズに即した新たな技術講習会等の企画・運営を実施することにより、教育に関する事業の一環として、更なる会員サービスの向上と会員減少及び新規会員の入会の一助となることを期待して取組みたいと考えております。従前の建築技術講習会は、「過渡期の精査」から「事業の新たな展開へ」と移行することになりますが、今後とも会員の皆様のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

来たるべき全国大会に向けて

総務委員会

委員長 西岡 誠 (札幌支部)



7月の会誌発送に同封いたしました「建築士会活動の活性化、会員増強に向けたアンケート」にご協力いただきました会員の皆様、アンケート項目へのご回答のほか、貴重なご意見、ご指摘等をいただきまして、大変ありがとうございました。アンケート結果は、理事会を通じ、理事の皆様、会員増強特別委員会、各実行委員会委員長に提出いたしました。

今後とも会員の皆様のご意見、ご要望に沿う建築士会であるよう、総務委員会としまして、いただきましたアンケート結果、コメント、要望等を真摯に受け止め、分析・考察を行い、今後の建築士会活動、会員の増強への提案等に生かしていきたいと思っております。あらためまして、アンケートへのご協力、ありがとうございました。

さて、平成31年の全国大会は函館で開催されます。8月21日、正副会長、統括理事、事務局、各実行委員会委員長とともに会場となる函館アリーナの視察を行い、函館支部長をはじめ、支部の方々との協議をいたしました。会場となる函館アリーナを見ますと、全国大会までまだ3年というより、もう3年という多少切迫した気持ちになり、心を改めた次第です。

総務委員会は函館支部の方々との総務・財務を担当する部会にかかわることになり、その総務・財務部会は端緒に大会テーマとサブテーマを来年6月までに取りまとめる作業に入ります。北海道で開催すること、建築士であること、取り巻く社会情勢そして環境等々、何をテーマとして訴えかけるかは大会の成功を大きく左右するものと考えております。

函館での協議において、大会テーマにつきまして広く会員の方々からも案を募ることとなりました。

その際には北海道から全国に向けた素晴らしい大会テーマを皆様にお考えいただきたいと思っておりますので、何卒、よろしくお願い申し上げます。



全国大会の行われる函館アリーナ内観

青年委員会

青年委員の責務？

道南ブロック長

朝倉 友和 (函館支部)



日頃より大変お世話になっております。若輩者の私が思う建築士会青年委員の責務？あり方？を折角、このような寄稿依頼がありましたので少し生意気ながら考えてみました。



道南ブロック協議会イベントで珍しく真面目な私

なぜ建築士会に入会し活動するのか？忙しい仕事の合間を縫って、さらに折角の休日を利用して……。別に仲間を作らなくても身近にいるし、家族もいるし、自腹がほとんどだし……。会社の理解も無いし、就労時間も他業界よりも長いし……。等々思い当たる方もいるかと思います。

しかしメリットも多々あります。業界への顔が広がり、コミュニケーションがとれ、困った時の相談や情報収集にも繋がる。また、色々な技術を共有することで良い建物ができる。また、違う世代と交流することで人格を養うことが出来る。社会貢献活動によって人格が育ち、人格が育つから社会貢献活動もできる。



木で遊ぼう！マイはし作り体験



マイ箸完成でにっこりピース

団体だからこそできることもあり、体験もできる。仲間ができ、楽しい時間を過ごす事ができるなど。私が入会したのは、平成23年3月、函館支部長であります山内様に勧められたのがきっかけです。当時は、正直、仕事に少しでもプラスになれば良いなと思っていただけで、特にそんなに考えず入会しました。今思うと、まさか道南ブロック長という立場になり活動をしているとは夢にも思っておりませんでした。しかし、何となく青年委員の活動に金魚のフンのようについていき、皆さんと接しているうちに、非常に居心地が良くなっていき建築士会って良いなと感じるようになってきました。仕事も忙しく、家族に不満を言われながら等、同じ境遇の仲間達と共に社会貢献活動や勉強することは、有意義な時間です。私は、建築士会の活動を通じて人格を磨きたいと思います。もちろん楽しい事もしたいので遠回りしますけど(笑)。



ブロック協議会懇親会

新入会員の勧誘をするとき、どのように声を掛ければよいのでしょうか。新入会員においては、殆どが20代から30代の若手になります。家族持ちの会員であれば、

家族の合意も無ければなかなか入会してもらえません。家族が重要視されている時代ですので、家族に何かメリットとは言わずとも家族と一緒に楽しくする方法も考えなければなりません。今まで私たちが感じてきたリスクを少しでも多く取り除くことが入会時に感じるハードルを下げることにつながるのではないのでしょうか。建築士の免許を取ったら、是非建築士会に入会したいと思わせ、家族からも『お父さんが建築士会で活動しているなんてすごい』と言わせる何かが必要です。何か家族に『いいね！』と思われる方法を、会員特に青年委員が一丸となって探さなければいけない時期に来ているのかもしれない。

最後に乱文失礼しました。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



道南ブロック協議会(室蘭)ポルタ作り



みんなで完成披露



完成品：作 朝倉

石狩支部

事前視察を見学したツアー



事務局長
笠間 友美

石狩支部の今年の建築士の日イベントは、石狩の厚田区に道の駅が出来るので、道の駅の建設予定地の視察を兼ね、厚田区を見学するツアーを7月12日に開催しました。石狩市の建設事業協会を18名の参加で正午頃にバスで出発し最初は石狩市近郊の当別町道の駅の現場を視察しました。こちらは石狩市からも近く、同じ時期に道の駅の建設を行うとの事だったので見学させてもらいました。こちらはロイズの近くで分かりやすく良い場所でした。

その後に、石狩市高岡の「わがまま農園カフェ」で昼食を取りました。去年から夏の間だけ営業しているカフェで、高岡の野菜と近郊の食材をたっぷり使った料理が自慢のお店です。最初に出てくる野菜サラダはとてもボリュームがあって、食べきれぬの

かな？という感じでしたが、絶妙な味で、男性陣も残す事なく食べていました。こちらのお店のお料理はとてもお勧めなので、石狩まで足を運んでも行って欲しいお店でした。

その後は厚田の戸田記念墓地公園とカフェニタを見学しました。近くにあっても行く機会がなかった場所ですが、とても綺麗な場所でした。最後に厚田道の駅の建設予定地の見学でしたが、石狩市の担当職員の方に来てもらい、完成予定図を見ながら説明をしていただきました。建物が完成すると、海が一望できる素敵な場所になりそうでした。今回の視察会も参加者皆様楽しんでもらえて良い視察会になりました。



見学ツアー参加者で記念撮影

留萌支部

留萌支部の近況



事務局長
畑田 彰

各支部の皆様、建築士会での活躍毎日の業務の中本当にご苦勞様です。留萌支部の近況を報告いたします。留萌支部会員数は、現在58名、会員の増員ですが、昨年も報告しましたが増員に至らず、改めて2名の勧誘をしています。

今年の留萌支部活動は、7月30日には、建築士による家庭科住教育出張講座「建築士向セミナー」が留萌支部にて開催され、小樽支部本間恵美さん、旭川支部高見友子さん、稚川正人氏3名講師に留萌高校教諭2名、留萌支部会員8名参加しセミナーが開催され有意義な時間となりました。

また、10月22日(土)には、留萌振興局主催「寄り

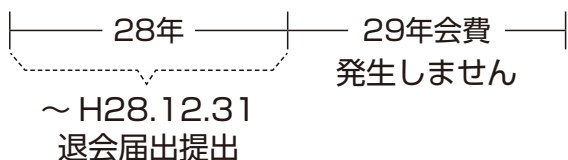
道の駅フェスタ2016」の協賛として「住まいのリフォームセミナー」が開催され支部会員も参加します。

そして、留萌支部のメイン事業として毎年開催されるチャリティビアパーティが「建築士の日」の事業として参加者≒500名により7月7日盛大に開催され、売上金の一部を4団体に寄贈しました。この催しは留萌支部会員一同の手作り事業であり支部会員の大きな励みとなっております。

最後に留萌支部の会員数は各支部も同じと思いますが過去から見ると大幅に減少しております。年齢層も高くなっている現況の中でできる限りの力を持ち寄り信頼できる建築士として活動していきたいと思っております。各支部の皆様も一緒に頑張りましょう。

平成29年会費関係スケジュール

【平成28年12月31日迄に退会届提出の場合】



【平成29年1月1日以降に退会届提出の場合】



平成29年会費請求を11月上旬に郵送いたします。

納付期限は、平成29年3月31日迄となっておりますので、よろしく願いいたします。

年の途中で退会された場合でも1年分の会費が発生いたします。都合によりやむを得ず退会される場合、12月31日迄に退会届を所属支部へご提出をお願いいたします。

※会費の滞納が続きますと会誌の発行、会員としての特典が停止されます。

【お問合せ先】

(一社)北海道建築士会 TEL 011-251-6076

CPD認定プログラム(10月認定)

◆杭基礎の設計・施工の要点と「基礎ぐい工事監理ガイドライン」の解説講習会(DVD講習)

《日程及び会場》11月10日(木) 13:30~16:50
北海道第二水産ビル(札幌市)
《単位数》3単位
《問合せ先》(一社)北海道建築士会
TEL 011-251-6076

◆札幌のまち歩き vol.1 “ファイターズ通り”はなぜナメ??を探る編

《日程及び会場》11月3日(木) 13:00~16:00
本龍寺 他(札幌市)
《単位数》2単位
《問合せ先》(一社)北海道建築士会札幌支部
TEL 011-232-1843

◆北海道住宅検査人講習会

《日程及び会場》12月1日(木) 13:15~15:10
かでの2.7(札幌市)
《単位数》2単位
《問合せ先》(一社)北海道建築技術協会
TEL 011-251-2794



CPD 自習型認定研修の設問

P2-P3 技術ノート
(人口減少時代の定住施策 一人の動きの的確な分析と課題のあぶり出し)

北海道建築士 No.231
2016/11/1 単位:1

設問 道内郡部の人口動向について、最も不適切なものはどれか。

- 北海道の合計特殊出生率が低く、少子化が人口減少の要因になっている。
 - 若年層の転出数が転入数を上回っていることが、人口減少の要因となっている。
 - 高齢化率が上昇し高齢者数は今後も増え続ける。
- ※不正解の場合は、単位に登録できない場合があります。

道士会の動き

道本部の主な会議報告(10月)

◆第3回事業委員会

- 《開催日》10月6日(木)
《議題》1) 東西アスファルト事業協同組合との協賛事業等について
2) 建築士会インスペクター養成講座(第2回)の開催について
3) 杭基礎の設計・施工の要点と「基礎ぐい工事監理ガイドライン」の解説講習会の開催について
4) 「中大規模木造設計セミナー」の開催について
5) 新たな「テキスト」作成等の方向性について
6) その他

◆第2回まちづくり委員会

- 《開催日》10月29日(土)
《議題》1) 平成28年度事業報告、平成29年事業計画・予算案について
2) 高校生建築デザインコンクールについて
3) 高校生「建築甲子園」について
4) 連合会まちづくり委員会について
5) その他

編集後記

季節も足早に過ぎ、今年も後2ヶ月。暖房の恋しい季節となりました。

今号の情報委員による取材記事とcoffee breakにも建築士の日の事業についての報告がありました。これらに限らず、各支部では魅力的な事業・イベントが開催されております。会員の皆様におかれましては積極的な参加と、開催の周知・報告に当会誌『北海道建築士』を活用いただけますようお願い申し上げます。

情報委員会 斎藤 勝哉(旭川支部)

関係機関等会議出席状況(11月)

1日(火) 道北ブロック会 高野会長出席
2日(水) 北海道と7団体意見交換会 高野会長出席
21日(月) 建築CPD運営会議 高野会長出席

道本部の主な行事予定(11月)

《開催日》
11月5日(土) 第2回青年委員会WEB会議
11月11日(金) 第3回被災地応急支援委員会

11月開催講習会のお知らせ

- ・建築士定期講習
11月8日(火) 旭川市 11月16日(水) 苫小牧市
11月16日(水) 釧路市 11月24日(木) 札幌市
- ・監理技術者講習
11月9日(水) 札幌市
- ・応急危険度判定士認定講習会
11月7日(月) 室蘭市 11月17日(木) 函館市
11月10日(木) 倶知安町 11月22日(火) 岩見沢市
11月11日(金) 北見市 11月22日(火) 留萌市
11月11日(金) 根室市
- ・杭基礎の設計・施工の要点と「基礎ぐい工事監理ガイドライン」の解説講習会(DVD講習)
11月10日(木) 札幌市

※P7 笠原爺イの釣り日誌 はお休みします。

情報委員会委員長/早川 陽子
副委員長/斎藤 勝哉・高松 徹・森 勝利
委員/熊谷 智・柳山美保子・鈴木 雅人
柏倉 晶憲

北海道建築士 No.231号

印刷 平成28年10月/発行 平成28年11月

編集・発行 一般社団法人 北海道建築士会
〒060-0042 札幌市中央区大通西5丁目11番地
大五ビル
電話 (011) 251-6076番
URL <http://www.h-ab.com/>

印刷 株式会社 正文舎
〒003-0802 札幌市白石区菊水2条1丁目
電話 (011) 811-7151番